

令和4年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (最終評価段階)

令和5年3月30日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>めまぐるしく変化していく社会の中で、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び変化に対応する力を身に付ける。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎生徒が確実に学力面で成長するために、知識・技能に加え、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広く育む ◎自己の進路目標を見定め、その達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎「あたり前のことをあたり前にする」態度、特に基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む教育活動の推進 ◎ICT教育の充実と、校務のICT化等の教育情報化の推進 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取組を充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む</p>		<p>・スクールミッション、スクールポリシーの策定に向け、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・新学習指導要領の実施に向け、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用について、一人一台端末の円滑な導入に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的にわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進める。</p> <p>・持続可能な社会の構築の観点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p>	<p>『 寄り添い 育て 鍛え 送り出す 』</p> <p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』 学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・希望進路に照らして』 特別支援 『情報共有・家庭、関係機関との連携・個に応じて・日常観察』 ICT活用 『校内研修の充実・教材開発、共有・他校連携・チャレンジ』 生徒指導 『褒める・生徒の自主性や主体性を引き出す・温度差のない指導』 部活動 『積極的な部活動参加・活動を通じた人間力の育成・学校の中心的存在』 広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生、卒業生の活躍を紹介・出身中学校へのアプローチ』 労働環境 『超過勤務激減・整理整頓・相互理解と協力・意識向上・ライトダウンデーの設定』</p>			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
国語科	<p>言語活動を通して、的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。また、言語感覚を磨き、伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。</p>	<p>生徒自身が主体的に思考・表現することができるような授業づくりに努める。 その際、グループワークやプリント学習等を行い、必要とされる資質・能力を伸ばす工夫を行う。</p>	C	B	B	<p>生徒の能力を伸ばすために、授業の形態を工夫している。また、一年生の授業以外でも、ICTを用いて、授業を展開することができる。教師・生徒間で行っているデータのやりとりを、生徒間でもできるような授業づくりを今後していく必要がある。</p>
		<p>言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を育成する授業づくりに努める。 その際、ICT機器を活用するなど、教材をより身近に感じられるような工夫を行う。</p>	C	B		
地歴・公民科	<p>授業を大切に位置づけ、観点別評価をもとに、個に応じた指導を行う。授業の内容と社会事象とを関連づけ、生徒に物事の見方・考え方を身につけさせ、主体的に学習に取り組ませる。また、未来の有権者として、一人の主権者として現代社会での諸活動に参画する態度を育む。</p>	<p>地理・歴史・公民分野の授業内容を適切に理解させるとともに、時事問題や生徒にとって身近な事柄も扱い、生徒が自分のこととして社会の問題を考えられる授業を行う。また、学習の仕方の具体例を示し、個々の学習への意欲を高める。適宜声かけを行い、生徒の状態を把握し、担任や分掌とも連携して指導を行っていく。補充や課題、日々の声かけにも応じない成績不振の生徒への指導としては、目が行き届く環境で課題等を取り組ませる等、個々の課題に応じた指導を行う。</p>	C	B	C	<p>特に公共や政治経済、総合社会等の公民科の授業に於いて、時事問題や生徒にとって身近な話題を取り扱うことによって、現代社会の諸問題を自分事として捉えさせるようにしたが、授業時間も限られており、意見交換をしたり、議論を行ったりすることは十分に出来なかった。課題のある生徒については、担任と連携をとりながら概ね指導することが出来た。指導に乗りにくい生徒への指導は、目が行き届く環境で課題に取り組ませる等の方法を講じたが、それでも指導に乗らない生徒もおり、指導し切れない部分もあった。今年度から1年生は新カリキュラムが実施となり、公共と歴史総合それぞれの授業で、グループ学習や発表等、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫し授業を展開したが、いずれも週2時間という授業時間の制約等があり、望ましい形態や回数の実施が難しかった。また、iPadやロイノートをはじめとするICTを活用した授業は、担当者によって活用状況に差があり、今後も引き続き積極的に行い、実践例を積み重ねながら、より生徒にとって望ましい使い方を試行錯誤していく必要がある。来年度は、2年生での地理総合や世界史探究・日本史探究が入ってくるため、これまでの授業形態を抜本的に改革していこうとする意識が教員側から求められているため、教科担当者間でこれまで以上に連携をとりながら実践していく必要がある。</p>
		<p>文献や新聞記事など多様な史・資料や視聴覚教材、ICTなどを用いて、社会的な見方・考え方を身に付けさせ、現代の諸課題の解決をめざし、その内容を探究的に学習させる。また、プレゼンテーション能力を身に付けさせるために、科目の特性に応じて、発表やグループ学習、ディベートなどを取り入れ、他者の考え方にふれたり自己の意見を他者に伝えたりする経験をさせる。さらに、新指導要領の実施に伴い、学習内容及び学習方法の精査、検討等を行う。</p>	C	C		

数学科	基礎基本の定着を重点目標とし、大学入学共通テストの傾向を踏まえて学習指導要領に則したICTを活用した授業展開を研究する。	共通の小テストや週末課題等を通して、基礎基本の定着と学力向上、学習習慣の確立を図る。あわせて、教科会議にて授業内容の検討とともに観点別評価の実施内容について研究する。	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の長期課題を設定することができた。基礎補充を実施し、教科全体として学力向上を目指すことができた。 ・教科会議にて授業内容の検討や進捗状況の共有、定期考査に向けての指導内容の統一を行った。観点別評価の実施内容については、定期考査の内容検討時に交流した。しかし、授業内容までは検討ができなかったもので、次年度は授業展開を踏まえて検討したい。 ・他教科との連携までつなげられていない。しかし、3年数学活用ではSPIを題材に文章を読み取る力の育成に力を入れた。文章問題や会話文形式の問題、考え方を示した問題等、様々な形式の問題を採用することはできた。個人での工夫はできたので、次年度は教科として、科目として最適な内容を検討していきたい。
		教科内だけでなく他教科とも連携をとり、文章を読み取る力・必要な情報を抜き出す情報処理能力を身につけさせ、実生活に結びついた事柄を扱った問題や会話形式の問題を理解し、自力で解くことのできる力を育成する。	C	C		
理科	これからの社会を担う人材として、基礎学力の向上を図り、主体的に考え学ぶ姿勢や問題解決する力を育成する。	基礎学力が身についているかを小まめに小テストや課題、レポート等によって確認し、授業に反映する。また、個々の到達度や興味関心、進路目標に合わせた課題の設定を行う。知識の記憶だけでなく、具体的な問題に取り組ませることで得た知識を活用し、思考力・応用力を身につけさせる。また、家庭学習や小テスト、定期考査を利用し、計画的に学習する力を身につけさせる。	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> * 応用の課題の提出を生徒の自主性に任せため、意識の高い生徒に対する細やかな指導にまでは至らなかった。しかし、こまめな小テストなどで生徒の状況確認を行い、授業に反映させ、個々の関心、到達度、進路希望に合わせて課題の配布を行えた。 * 小テストなどで生徒の状況をこまめに把握したものの、応用力や思考力の習得に関しては前段階の知識の定着が思わしくなく、積み上げができずに応用の入り口で終わっている。与える知識をさらに精選し、簡単な応用まで授業で扱う事で自学自習の力を身につけさせたい。 * ICTの活用については、考えをまとめて発信する力を身につけさせるところまでは至らなかったものの、ドライバやビデオ教材を活用して視覚的に興味関心を引く効果を一定得られた。ICTの双方向の利用により考えをまとめたり発信する力を身につけさせるきっかけとなることが考えられるので、次年度は考えたことを発表する機会を授業の中で設けたい。
		学習意欲を高めるために、実験・実習や理科的思考を養うような授業の実施方法を実践するとともに、生徒の理解を深め関心を引くために、ICT教材も取り入れて有効に活用する。また、生徒が主体的に取り組める課題を設定し、発表を通して自分の考えを整理し、ICTを活用して発信する力を身につけさせる。	C	B		
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を目指す。また、自らの健康や環境を適切に管理し、改善していく資質や能力の育成を目指す。 ・主体的・合理的・計画的で深い学びを目指した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツに対して「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方があることを理解させ、多くの運動・スポーツの中から自分に適した種目を選択し、生涯を通して主体的に運動・スポーツに親しむ基盤を育てる。 ・ICT機器を活用し、自己や他者の運動動作等を確認することにより、自主的にまたお互いに指摘しあったり課題を見つけ出ししたりし、改善や修正ができる一助となるようにする。 グループ活動や班学習を通して自己の役割を理解し、責任をもってやり通す力をつけさせる。また、これらの活動をとして協働することの大切さを学ばせる。 	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにより親しめるよう種目選択の方法を従来と変更することで、自分の興味ある種目に意欲的に取り組むようことができた。 ・「振り返り」の機会を増やし、自己の課題を発見し、次時につなげ、主体的に取り組む一助となった。 ・ICT機器の活用により効果的に行っている種目もある。特にダンスでは繰り返し動画が見られたり、小グループでできることで互いに教えあったり、主体的に取り組む姿が見られた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションの考え方を踏まえて、個人の適切な意志決定や行動選択が生涯の健康づくりに関わることを意識させる。 ・課題学習を通して、調査・研究・発表を実践させる。発表の際には生徒自らがICT機器を活用したプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育てられるよう指導する。 	C	C		
芸術科	感受できる心と表現する力を育てることを目指し、指導方法の工夫を行う。	本校生徒の実態に応じた教材の開拓、研究を行う。	B	B	B	本校生徒の興味、関心を探り、生徒の実態を踏まえた教材開拓及び研究を、昨年度に引き続き行った。観点別評価については、今までの指導、評価を整理するとともに、新たな評価を行った。本校の実態に沿った評価のあり方の検討を今後も継続して行っていきたい。タブレットの導入については、WiFiのつながりにくいこともあって、一部使えない機能もあり、課題が残る。
		生徒の感性をもとにした実技活動を進め、内容を深めるとともに、観点別評価の研究と実践を行う。	B	B		

外国語科 英語	あらゆる生徒に対して、基礎・基本を大切にしながら4技能をバランスよく伸ばすことを目指し、「覚える」よりも「考える」「理解する」ことを意識して教材・授業法・評価方法を改善する。その際タブレット端末の有効的な活用方法を考える。	1年生における学び直し教材を通して、基礎・基本を身につけさせる。タブレット端末を活用し多種多様な学びの機会を増やす。2、3年生においても4技能をバランスよく伸ばすことを目指し、アクティブラーニングやパフォーマンス(音読・スピーチ・自由英作文)を取り入れた授業や評価に取り組む。	C	B	B	学び直し教材を通して中学の復習を強化することができた。その結果GTECのスコアからも一定の成果を確認できた。2年生については前回比較でスピーキングテストにおいて顕著な伸びが見られ、リーディング・リスニングでも伸びが見られた。タブレット端末の活用については教科での研修が必要である。補習や補充、日々的小テストについては各学年とも丁寧な指導を行い、家庭学習の充実と習慣化を図ることができた。英語検定を校内で3回実施し2次試験の面接指導も実施できた。
		英語を苦手とする生徒に対しては、つまずきの原因を早めに明らかにし、適切な働きかけを行いながら単位認定を目指す。また生徒の関心や意欲を高める様々な工夫をしながら、タブレット端末を有効活用し、個々の進路実現につながる授業や補習の実施、また家庭学習の充実と習慣化を図るための課題(宿題、小テストの実施)を計画的に提供する。	C	B		
家庭科	実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。授業規律を確保し、授業や学びの環境づくりを大切にする。日々の授業を主体的に学ぶ姿勢を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の生活を見直し、授業で学んだことを生活に反映できるような学習課題に取り組みせ、知識と技術の向上を図る。 ・グループ学習や発表会、講演会において、さまざまな人の意見を聴き、多様な価値観にふれ、自分らしい生き方について考えさせる。 ・調理・被服製作・保育などの実習における教材や指導方法を工夫し、実践力を身につけさせる。 ・子育て学習プログラムを利用し、「ライフスキル」の探究活動における教材研究をする。 ・保育技術検定4級合格率100%を目指す。 ・ICT活用教材の研究を進める。 	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が自身の生活を振り返り実践につなげられるようなワークシートや教材を工夫して作成し、授業を行うことができた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策が求められる中、最大限工夫し、保育実習や調理実習等をはじめとする、様々な体験的授業を実施できた。また、その授業において生徒個々がテーマを持って臨み、課題解決にむけた学習が展開できた。 ・「ライフスキル」の授業において探究活動に取り組み、学習が主体的に取り組めるような教材(ワークシート)、内容(実験、発表)等、工夫できた。 ・保育技術検定合格率は77%にとどまり、目標の100%には届かなかった。 ・ICTを活用した授業に取り組めた。実習授業でのより効果的な活用方法についてさらに研究をすすめるとともに、次年度より家庭基礎・ライフスキルIで始まるタブレット学習について早急に教材研究を行う。 ・授業規律の指導については、スマートフォンのルールについて、実習室では収納場所を固定することで徹底できた。一方で、授業はじめの身だしなみ指導については最後までやりきれなかった部分もあり、来年度に課題を残した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業プリントやレポートを確実に取り組みせ、考査ごとにファイルの内容を確認し評価する。 ・授業の始まりと終わりの挨拶・授業中の態度・身だしなみ等の指導を徹底し、落ち着いた学習環境づくりに努める。 ・実習時の服装、身だしなみ(スマートフォンのルール)、衛生安全面についての授業規律を確認させ、周知徹底する。 ・生徒自身が考えて学習に取り組める内容のワークシートを作成するとともに、意欲的な学習姿勢を持続させられるよう指導方法を工夫する。 	C	C		
情報科	授業規律を確保するとともに、「自ら学ぶ姿勢」を養うため、実践的・体験的な学習活動を重視し、発表や相互評価を通して、互いに高めあい、共生社会の中で生き抜く力を育成する。	授業規律の確保に努める。特に、授業開始時終了時の挨拶、身だしなみのチェック、指示を聞く姿勢など、落ち着いて学習できる環境が生徒自身の自覚により生まれるように指導する。	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 身だしなみ等について、毎時間声かけをし一定の指導はできた。 ● 新学習指導要領の範囲の教材を適宜作成した。特にプログラミングについては、小冊子を作成し指導することができた。来年度以降も改善に努めたい。 ● 相互評価を通して作品改善に結びつける授業を展開できた。 ● 総合的な学習の時間では、統計やプログラミングの実習を通して、探究を重視した活動を実施できた。
		新学習指導要領に準じた授業や評価方法などを、実施しながら検討・改善を進める。学んだ技術を活用できる作品制作と発表、相互評価と改善の機会を設ける。探究的な学習の時間を通じ社会に貢献できる人間を育てる。	B	B		

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね達成できており、適切な課題設定と運営がなされている。 ・目標設定では、一部数値目標も取り入れられており、達成度を客観的に図ることができている。 ・総合評価で達成できていない項目について、次年度以降の方向性と評価項目の見直しが必要である。 ・地域は洛東高校を応援している。自然環境、地の利に恵まれており、地域の使える人材を活用し、教育活動を進めてほしい。 ・夢や楽しさがある高校生活を望んでいる。両立を目指すにはどうすればよいかという視点でも、学校改革を進めてほしい。 ・洛東高校は頑張っている。イメージもよい。キャリア教育につながる授業も多く展開されている。これからも協力していきたい。
次年度に向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつであるが成果が見られる進路指導について、さらなる充実を図りたい。 ・新学習指導要領の実施と一人1台端末の活用について、授業改善、観点別評価の両面から、さらなる研修が必要である。また、各分掌が連携し、ICT教育をより一層推進する。 ・スクールポリシーの策定に向け、学校のグランドデザインの明確化を図り、各分掌が連携した学校運営を図る。 ・学習習慣の定着や基本的な生活習慣(遅刻や身だしなみ等)の指導を各分掌が連携して行い、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を強化する。 ・効果的な広報活動を行い、選ばれる学校づくりを進める。 ・「働き方改革」を具体的に進めるため、各分掌と協力しながら業務改善を進める。